

普及センターだより

くりはら

第115号



普及活動標語

思いを形にあなたのチャレンジ支えます。応援します。農業普及

〒987-2251 栗原市築館藤木 5-1
TEL 0228-22-9404 (地域農業班)
0228-22-9437 (先進技術班)
FAX 0228-22-5795、6144
E-mail khnokai@pref.miyagi.jp
URL http://www.pref.miyagi.jp/kh-nokai/

宮城県栗原農業改良普及センター



▲ 若柳地区三田鳥宮農組合座談会の様子
組合員に対して実施した法人化に向けたアンケート調査結果について説明。

▼ みやぎ農業未来塾

指導農業士の説明を熱心に聞く青年農業者



一陽来復 (SHINGONSHIN)

年が改まり二〇一〇年がスタートいたしました。今年の干支は「庚寅(かのえとら)」。

この寅年の作柄を国が発表している水稻作況指数(昭和三十三年以降・宮城県)で見ると、一〇〇以上が一回、九九以下が三回、平均では九八の「やや不良」となっています。統計で見ると、どうも寅年は災害に見舞われることが多く、豊凶の差が大きい年回りのようです。こうした寅年ですが、今年は何とか災害のない作柄の安定した「良い寅年」となるよう願うものであります。

さて、「冒頭に掲げた「一陽来復」ですが、易経が出典といわれ、「季節は冬至を境に陽気が上向くこと、春の到来を指す」言葉といわれており、これが転じて、「活動のエネルギーが良い方向に満ち満ちていくさま」を表すものと解釈されています。

上の二葉の写真。一葉は「集落営農組合」での座談会の様子。もう一葉は若い後継者を対象とした「みやぎ農業未来塾」での研修の「コマ」。いずれの写真も参加者の面差しには真剣さが感じられ、取り組みへの熱意と意欲が伝わって参ります。まさに一陽来復の春が到来しつつあることを予感させます。

どうぞ皆様には、今年一年、それぞれの営農計画に基づきご努力をいただき、自らの農業経営が充実・発展されますようお願い申し上げます。新年のあいさついたします。

栗原農業改良普及センター

所長 吉田 守

集 特 みやぎの 食料自給率を 高めるために

日本の食料自給率(カロリーベース)は四十一%(平成二十年度)と先進国の中では最低であり、約六割はアメリカやカナダ、オーストラリア等特定の少数国からの輸入に頼っています。

昭和四十年年度の食料自給率は七十三%でした。その当時、ご飯は一日平均五杯食べていましたが、現在では三杯に減り、その代わり肉料理の回数や植物油を摂取するようになる等食料自給率が低下した要因は、私たちの食生活が大きく変化していることが影響していると言われています。

宮城県の食料自給率は八十%(平成十九年概算値)東北では最下位(全国第十位)です。品目別では米、魚介類が二百%を超えています。野菜、肉類、果実等は100%を大きく下回っています。本県は豊かな自然に恵まれた「食材王国」ですが、農林水産業の生産現場では、担い手の高齢化や後継者不足、耕作放棄地が増加する等将来に渡って食料を安定的に供給できるかが課題となっています。

このような実状を踏まえ、今年度から「みやぎ食料自給率向上県民運動」に取り組んでいます。
また、運動の実現に向けて一緒に取り組みを推進する「みやぎ食料自給率向上クラブ」会員を募集しています。(詳しくは宮城県のホームページを御覧ください。)

＜運動が目指す 宮城県の姿とは＞

「生産者」と「消費者」の
信頼関係の構築

将来に渡って

宮城の豊かな食を守る

元気みなぎる農林水産業と

豊かな食生活の実現

【普及重点課題の紹介】

新生糠塚生産組合の集落宮農活動

平成十九年に設立した志波姫・新生糠塚生産組合では、様々な試作を行っています。

園芸品目では、昨年から「さつま



も」の栽培に取り組んでおり、定植や収穫・直売などを組合員一丸となって行っています。「さつまいも」は十月二十五日に収穫を迎え、その場で直売を行いました。天気にも恵まれ、多数の集客がありました。今年度は「クイックスイート」と「ベニアズマ」の二品種を作りましたが、「クイックスイート」の方が甘くてしっとりとした食感で高い人気でした。収穫した「さつまいも」は、生芋の販売の他に、あん餅やアイスクリームなどへの利用を検討しています。

また、今年から新たに渡辺採種場との契約でたまねぎの母球取り栽培に取り組んでいます。十一月二日に組合員総出で苗を定植し、順調に生育しています。越冬後来年六月に収穫期を迎える予定です。組合では、一年取り組んでみて来年以降も定着させられればと考えています。

地域に支えられる 女性起業者の経営確立

十二月一日に栗原市築館ふるさとセンターを会場に、管内の農産物直売所やアグリビジネス実践者等を対象にキャリアアップ講座が開催されました。太子食品工業株式会社の佐上精一氏を講師に、「大豆の機能性と商品開発」と題して講演をいただき、大豆の加工特性や商品の可能性について研修が行われました。

当日は、実際に豆腐などを作っている加工グループや大豆生産者、直売所の経営者など二五名が参加し大豆の加工について活発な情報交換がなされました。参加者は、積極的な情報交換や技術の研鑽の場を望んでおり、今後、普及センターを中心にアグリビジネス実践者間のネットワーク作りを進めていきたいと考えています。

十二月中には味噌の研修会の実施や

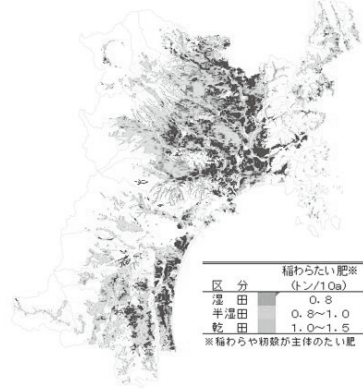
二月上旬には、直売所運営や野菜栽培の基礎とコツ等について研修会を計画しています。



環境保全型農業の普及支援について

環境保全型農業では、土づくり等を通じて化学肥料や化学合成農薬を削減しながら、物質循環機能を十分に働かせ、生産性を落とさずに、環境に優しい営農活動を持続していくことが大切です。

自然の持つ循環機能の能力を超えて資材を投入すれば環境の汚染につながることは、たい肥や有機肥料の施用についても例外ではありません。また、農薬や化学肥料をやみくもに減らしても収量や品質は安定しません。有機肥料で不足する成分を化学肥料で補う施肥法や病害虫の発生密度を経済的に実害が生じない程度に抑えるIPM（総合的病害虫管理）技術など



乾田・湿田マップとたい肥施用量

の実践が求められています。

現在、各普及センターでは、環境保全米、IPM、エコファーマー等をキーワードにプロジェクト課題を設定し、環境保全型農業の普及支援に取り組んでいます。

1 JAグループ環境保全米づくり全県運動への支援

○水田土壌のたい肥施用基準マップによる土づくり支援

環境保全米の安定生産には、土壌タイプに応じた適正な土づくりと施肥管理が重要です。

そこで、各普及センターでは、一昨年から現場整備が済んだ水田を中心に土壌調査を行い、昭和五十年代に作成された「土壌マップ」の見直しを実施してきました。

今年、このマップを活用して土壌タイプを三区分（乾田、半湿田、乾田）し、たい肥の施用目安となる地図を作成する予定です。

各地域にはたい肥資源が豊富にあるので、それぞれの施用基準をマップ化することで、耕畜連携を進めながら、バランスのとれた土づくりの実践を目指します。

2 環境に配慮した園芸生産の振興

○施設野菜におけるIPM技術の実証及び普及

亘理普及センター管内のきゅうりと登米普及センター管内のなすを対象に、IPM技術実証ほを設置し、実用化に必要なデータの収集・整理を行っています。

三年目となる今年度は、ダクト送風による抑制きゅうりの褐斑病防除（うね間に小穴を開けたダクトを配置し、24時間送風することによって発病を抑える）に新たに取組んでいます。

なお、今回紹介した施設野菜の



ダクト送風による、きゅうり褐斑病の防除

IPM技術については、後日成果報告会を開催し詳しく情報提供します。ご期待ください。

○花きのエコファーマーに対する技術支援

宮城県では、エコファーマー（土づくり技術、化学肥料・化学農薬低減技術を導入し県認定を受けている農業者）が増えており、花きでも延べ二八七名が認定されています（県農産園芸環境課調べ）。

登米の洋花類、仙南や南三陸のキク類などでは生産部会全体で認定されるなど広がりが見られます。

普及センターでは、そうしたエコファーマーが導入した「環境に配慮した生産技術」の定着を支援しています。たとえば、アザミウマ類など農薬抵抗性を獲得しているため防除が難しい害虫の場合には、単なる薬散だけでなく、薬効データを基に殺虫効果の低い剤の散布は避ける、ハウス開口部にネットを張って物理的に防除するなどの複数の技術を組み合わせることによって化学農薬散布回数が抑えられるよう技術の推進を図っています。

思いを形に、あなたのチャレンジを支えます、応援します。宮城の農業普及

最近の米粉事情に注目

米の消費量は年々減少傾向にあり、今後も米飯用の需要は、人口の伸びや一人当たりの消費量からみると漸減傾向が続くと予想されています。一方、小麦は年間五百万トンが輸入されているため、国産米粉を小麦の代替として活用することに、注目が集まっています。

これまで、米粉の用途はせんべいや団子などでしたが、近年の微細化製粉技術の発達により、小麦粉の代わりに米粉が様々な食品に利用できるようになってきました。特に、米粉パンや米粉めんへの利用拡大が進み、学校給食の人気メニューにもなっています。

米粉食品については、各用途ともこの二年間で認知度・関心度・購入意向の割合が増え、今後多様な商品開発が進めば、米粉及び米の消費拡大が見込めます。

米粉の原料となる米の生産には、生産コストを下げるために多収品種が望まれています。そこで、主食・米粉用に向く新しい品種「東北189号」に期待が集まっています。



東北189号(9月29日, 加美町)
1穂に100粒の籾が着き、粒も大きい

「東北189号」は、古川農業

試験場で品種育成されているもので、出穂期・成熟期が「ひとめぼれ」よりやや遅く、倒伏には「まなむすめ」より強く、大豆後の復元田にも適する品種です。また、いもち病に罹りにくい特性をもち、多肥条件で七百キログラム/10aの多収が期待できます。

主食用米としての食味も良く、多肥施用や復元田で玄米タンパク含有率が高くなる条件でも「まなむすめ」より食味・玄米品質が良い特長があります。

今後、超低コスト生産に向けて、直播技術や籾の立毛乾燥など、新たな技術の確立が待たれます。

思いを形に、あなたのチャレンジを支えます、応援します。宮城の農業普及

普及に移す技術(84号)期待の系統豚「ミヤギノL2」

「ミヤギノL2(ランドレース種)」は、「ミヤギノ」の後継豚として造成され、産肉性、抗病性、繁殖性に優れた特性を有しています。

形質名	平均値	備考
一日平均増体量	903.9g	体重30-105kg
背脂肪厚	21.5mm	体重105kg体長1/2部位
MPSスコア*	1.06	体重105kg
産子数	12.2頭	(第5世代)
飼料要求率	2.71	体重30-105kg

*MPSスコア: マイコプラズマ性肺炎病変スコア

なお、育成雌豚は、七月から畜産試験場より配付されています。(系統豚の詳細は、宮城県畜産試験場ホームページを参照願います。
http://www.prf.miyagi.jp/tikusans)



系統豚「ミヤギノL2」

宮城県農業大学校学生募集

明日の農業は私たちの手に!! 平成二二年度の学生を募集しています。平成二十年七月に専修学校化されたことにより、四年制大学への編入が可能となり、本年七月には二名の学生が宮城大学の編入試験に合格しました。これからの本県農業の担い手として、ますます活躍の幅が広がり期待される場所です。

【募集人員】

水田経営十五名・園芸十五名・畜産十五名・アグリビジネス十名

【一般入校 前期】

・願書受付 十一月二十日(金)
十一月三日(木)

・試験日 十二月十八日(金)

【一般入校 後期】

・願書受付 一月二八日(木)
十一月十二日(金)

・試験日 二月二二日(月)

【受験資格】

高校卒業者(見込み含む)か同等以上の学力を有する者

【問い合わせ】

宮城県農業大学校教務部学生班
電話 ○二二(三八三) 八一三八

土地利用型野菜導入による集落発展支援

萱刈営農組合（高清水地区）は平成十九年六月に十二戸で設立され、特定農業団体の認定を受けて集落営農に取り組んでいます。

二十年度から農業所得の向上を目指し、転作大豆栽培を開始しました。初年度は病害虫の被害に悩まされましたが、今年度は栽培期間中の防除を徹底することにより、単収と上位等級比率の向上を図っています。

また集落営農の先進地視察研修を毎年開催し、組織運営の一助としています。今年度は色麻町の下高城集落営農組合への研修を実施し、法人化に向けた合意形成手法や、組織ぐるみでの園芸作物栽培への取り組み等について学びました。

萱刈営農組合では、今後は新たな園芸作物の導入など、経営発展のための取り組みについて積極的に検討を行っています。



【技術情報】

新品種

「つや姫」について

山形県で育成された水稲品種「つや姫」が平成二十一年九月に宮城県の奨励品種に加わりました。

名称の由来

「炊き上がりのツヤと輝き、冷めてもおいしい商品力に、大切に育てた意味の『姫』を」から命名されています。

品種の特徴

宮城県では極晩生品種で、出穂期は「コシヒカリ」とほぼ同じかやや早く、「ひとめぼれ」より七〜十日程度遅くなります。そのため「ひとめぼれ」などの中生品種との組み合わせで収穫期間が拡大できます。

「コシヒカリ」より草丈が短いいため倒れにくく栽培しやすい品種です。

玄米品質は「コシヒカリ」「ひとめぼれ」と同程度が優れます。

炊飯米は光沢、白さが優れ、良食味です。「コシヒカリ」と比べて粘りが少なく、あっさりした食感です。

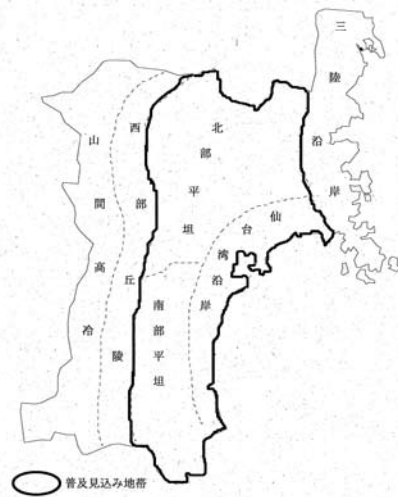
奨励品種に採用した理由

南部平坦地帯において「コシヒカリ」は倒伏により、「ひとめぼれ」は登熟

期間の高温により玄米品質が低下しやすい状況にあります。「つや姫」は草丈が短くて倒伏に強いことから、南部平坦部を中心とする平坦部での品質向上に貢献することが期待されます。

今後の作付け見込み

南部平坦地帯、北部平坦地帯及びび台湾岸地帯の平坦部における「コシヒカリ」や「ひとめぼれ」の代替品種として、作付目標面積を千ヘクタールとしています。



栗原地方の大豆の単収向上に向けて

一五八と一二七、この数字からどんなことが連想できますか。県内の大豆栽培で、千鈴を超える作付面積がある市町村は五市を数えます。一五八はこの五市の中で大豆の単収が一番高かったところの値です。一二七は栗原市の

単収の値です。

水田での大豆栽培が一般化されていますが、単収向上のためには、生育初期の湿害回避と生育全期に渡っての雑草防除がポイントになります。初期の湿害回避については、畦立て播種等の技術が講じられ、管内でもかなりの面積で普及していることを確認できます。一方で、除草対策が不十分で、雑草が繁茂した場合は目につきます。多収地域との三〇kgの差は、この所にあると考えられます。

除草の耕種防除の方法として、中耕培土がありますが、梅雨期となり計画どおり作業できずにいるというのが実情ではないかと思えます。

このため、高水分な土壌でも作業可能な中耕除草機が開発されています。



機を土を引ける。中耕除草機で、中耕培土ができ、高水分な土壌でも作業可能。高精度な作業ができる。高水分な土壌でも作業可能。高精度な作業ができる。高水分な土壌でも作業可能。

また、除草剤についても、雑草の種類に応じた土壌処理、茎葉散布による体系処理方法が可能です。（次頁、除草剤散布の例参照）

雑草をしっかりと防除し、収量と所得を確保したいものです。

「そらまめ」は近年、作付面積が全国的に減少傾向にあり、本県の二十一年産「そらまめ」の作付面積は五十五

○生産・販売状況

「そらまめ」の春まき栽培



取り組んでみませんか！

除草剤散布の例

ノビエがでやすいほ場

土壌処理剤(A) + イネ科茎葉処理剤(B又はC又はD)

アメリカセンダングサ、タデ類、イネ科雑草の発生が多いほ場

土壌処理剤(A) + ペンタゾン液剤(E) + イネ科茎葉処理剤(B又はC又はD)

イヌホウズキ、ヒユなどバサグラン液剤が効きにくい広葉雑草が発生しているほ場

土壌処理剤(A) + 非選択性除草剤の畦間散布(F又はG又はH) 又はリニュロン水和剤の畦間・株間散布(I)

A:エコトップ乳剤 B:ポルトフロアブル C:ナブ乳剤 D:ワンサイド乳剤 E:バサグラン液剤 F:ハービー液剤 G:バスタ液剤 H:ブリゲロックス I:ロロックス水和剤

※ 除草剤の使用に当たっては、ラベルの使用の注意書きをよくご覧ください。

「そらまめ」は酸性土壌に弱いので、土壌pHを六〜七となるよう酸度矯正し

す。

栽植密度は畝幅百二十センチ × 株間四十センチ(十ヶ当たり二千八十株)としま

す。

二週間前までは堆肥と土づくり肥料を、一週間前までは基肥を施用して

おきます(施用量は表を参照)。

定植は三月上旬が適期です。定植の

○定植

発芽適温は二十〜二十五℃なので、発

芽までは保温マットや温床線等を用い

ます。発芽後は管理温度を十五〜二十

℃とし、定植の十日〜一週間前から

徐々に外気にさらして順化します。

播種は九cmのポリポット等に行い、

二月月上旬です。「そらまめ」は幼苗期

に低温(三〜五℃)に遭うことにより

花芽が分化するため、二月十日頃まで

には播種するようにします。

○播種・育苗

春まき栽培の播種適期は一月下旬〜

二月月上旬です。「そらまめ」は幼苗期

に低温(三〜五℃)に遭うことにより

花芽が分化するため、二月十日頃まで

には播種するようにします。

鈴、販売数量は四百七十トンとなって

います(全農みやぎ調べ)。一方、本

県産「そらまめ」の平均kg単価は約三

百二十円(京浜市場・仙台市場)と安

定した単価を維持しており、特に全国

受賞おめでとうございます！

平成21年10月17・18日に開催された「みやぎまるごとフェスティバル」の農林産物・花き品評会において、次の方々が受賞されました。

宮城県農林産物品評会受賞者

Table with 3 columns: 部門・作物, 賞名, 受賞者氏名(地区). Rows include 水稲, 果実, 野菜, 林産物, 蚕糸.

宮城県花き産物品評会受賞者

Table with 3 columns: 品目名, 賞名, 受賞者氏名(地区). Rows include ピオラ, アレンジメントアスター, ハボタン, パンジー.

病害虫防除は生育盛期(四月上旬〜中旬)、開花直前(四月下旬)、着莢期(五

月中旬)、開花初期と、着莢期

に莢肥大期の二回、追肥を行います(表参照)。

また倒伏の防止、無効分けつの抑制のため、追肥後に中耕培

土を行います。

また倒伏の防止、無効分けつの抑制のため、追肥後に中耕培

土を行います。

また倒伏の防止、無効分けつの抑制のため、追肥後に中耕培

土を行います。

また倒伏の防止、無効分けつの抑制のため、追肥後に中耕培

土を行います。

また倒伏の防止、無効分けつの抑制のため、追肥後に中耕培

土を行います。

また倒伏の防止、無効分けつの抑制のため、追肥後に中耕培

土を行います。

また倒伏の防止、無効分けつの抑制のため、追肥後に中耕培

土を行います。

Table with 3 columns: 施用時期, 肥料名, 施用量 / 10a. Rows include 基肥, 追肥.

○収穫

収穫期は六月中旬頃で、莢に光沢が

出てきて莢の縫合線が黒く色づき、莢

が水平〜下向きになった頃が収穫適期

です。「そらまめ」は収穫適期が短い

ため、試しむきなどをして穫り遅れな

いようにします。